

第32回

うつのみやこども賞だより

平成27年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『二しの木広場のモモモ館』

高樓方子/著（ポプラ社）



～読んだ本の感想より～

●登場人物にとっても個性があり、読んでいてワクワクした。とくに、九宮鳥を探すところは次はどうなるんだろうとワクワクしっぱなしだった。

●モモモ館を作っていた時に、二しの木は水色のチラシの木ではなかったけれど、はずれてもいなかっただなと思いました。

●モモとモカとカンタを合わせて、「モモモ館」というのはおもしろい名前だなと思った。

●子どもたちが新聞を書くことで周りの人を助けいくところがおもしろかった。

●新聞を家の形にして、中に記事を書くアイデアがすごいと思った。

●かえ玉作戦が、とてもおもしろかったし、よくばれなかったなあと思った。

●モモモ館が本当にあれば、読んでみたいです。

『岸辺のヤ〜ビ』

梨木香歩/著（福音館書店）

●自然の大切さをもっとよくわかりました。そして、今までよりも自然を大切に、友達にも伝えられるといいなと思いました。

●言いまわしで物語のふんいきがかもし出されていいと思った。

●内容がとてもしっくりくる本でした。すすみ方としても、分かりやすくなっていて、読者に問いかけるようなセリフも多数あって、おもしろかったです。

●ヤ〜ビに会ってみたいと思いました。ヤ〜ビに会ったら今度はミルクじゃなくて、いちごみるくあめをあげようと思いました。

●ヤ〜ビはきっと学校があったら行くと思います。なぜなら『1人』で図かんを作ろうとしているからです。

●ヤ〜ビ族の暮らしをしてみたいと思った。

『魚屋しめ一物語』

柳沢朝子/著（くもん出版）

●自分は一人ではなく、周りの人に支えられて生きているだということがわかりました。この話が本当のことだということにびっくりしました。

●しめ一の一生分の物語がくわしく書かれていて、それが一冊の本におさまるのがすごかった。もう一つの人生を味わったような気分だった。

●昔、奉公があったのは知っていたけど、この本を読んで奉公がこんなにつらいのだとはじめて知った。

●「夢をもってがんばること」について考えさせられた本です。

●魚屋なんていったことがなかったけど、行ってみたいと思った。

『茶畑のジャヤ』

中川なをみ/著（鈴木出版）

●ジャヤと旅をするうちに周が今までを考え直し、いろいろな角度から人を見られるように考え方が変わっていく様子がしっかりかいてあったので、おもしろかった。

●一つの国にちがう人種が住むことというのはとてもむずかしいと感じました。

●光りかがやく島と名前が美しいのに内戦が26年も続いていたことはすごくしょうげきでした。

●どの国の人でも仲よくできるということを教えてくれる本でした。